羽根木のぞみ保育園

平成２９年度福祉サービス第三者評価

評価結果報告書

平成３０年３月３１日

評価結果の検索の仕方について

評価結果は、東京都福祉サービス評価推進機構が運営する「とうきょう福祉ナビゲーション」にて、公表されます。公表後は、以下の手順で、内容を確認することが出来ます。

手順①

１．ふくナビ　http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/　にて、「第三者評価」をクリック

２．「評価結果を検索する（検索）」をクリック

３．**事業所名を入力**して検索

手順②

１．ふくナビ　http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/　にて、「事業所情報」をクリック

２．「事業所名から探す」をクリック

３．**事業所名を入力**して検索

評点基準

事業評価では、以下の評点等により各評価項目を評価します。評点では表現しきれない貴事業所の実態やサービスの質については、講評に記載します。利用者調査には、評点はつきません。

評点基準 ＜カテゴリー１～７＞
評点は、標準項目の実施状況を以下のルールに基づき、記号化したもので、評価項目ごとにつける。 １ 標準項目の実施が確認できた場合は○、未実施・確認不可の場合は●で表す ２ ○及び●が混在する場合は、標準項目の順番にかかわらず、左端から○を配列し、●は右端に寄せて表す。 ３ 「非該当」が選択された標準項目は、評点の構成要素から除く
評点基準＜カテゴリー８＞
１ 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている ２ 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果として現れていない ３ 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

標準項目及び事業者が特に力を入れている取り組みについては、下記の定義と確認方法に基づいて確認します。

	標準項目	事業者が特に力を入れている取り組み
定義	東京都内の福祉サービス事業者が、福祉サービスの質の向上を図る観点から、標準的に実施していることが必要であると認められる事項、または、実施するための仕組み（取り組み）があることが必要であると認められる事項をいう。	事業者が力を入れている取り組みのうち、次のすべてに該当する取り組みであること。 ア 当該評価項目のねらいに合致した取り組みであること イ 当該評価項目に属する標準項目を少なくとも１つを満たしていること。 ウ 創意工夫、独自性や先進性などの観点から、利用者の選択情報や他の事業所のサービスの質の向上のモデルとして評価できる取り組みであること。
確認方法	カテゴリー１～７	
	標準項目を確認したものとすることができるのは、次のすべてを満たした場合とする。 ア 事業者が当該事項を実施していること イ その実施が継続的（必要性を認識し、計画的）であること ウ その根拠が示せること	
	カテゴリー８	
	確認するための視点は、カテゴリー１～７の取り組みに関連した成果で、各サブカテゴリーの主旨に則って成果があったか否かの確認とする。	

〔事業者の理念・方針、期待する職員像：認可保育所〕　平成29年度

《事業所名：羽根木のぞみ保育園》

1	**理念・方針 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）**
	事業者が大切にしている考え（事業者の理念・ビジョン・使命など）のうち、 特に重要なもの（上位5つ程度）を簡潔に記述 （関連　カテゴリー1　リーダーシップと意思決定）
	・保育の仕事を通して、未来にむけて、一歩ずつ前に進みながら進化していく ・専門性や人間性を磨き、それぞれがプロフェッショナルとして成長していくこと ・真の価値を提供しつづけ、そして追求し続けること ・大人の見守りの中で、「自立」と「自律」への芽生えを育む
2	**期待する職員像 （関連　カテゴリー5　職員と組織の能力向上）**
	（1）職員に求めている人材像や役割
	・心身ともに健康で明るい職員 ・自分から主体的かつ積極的に働く職員 ・何事にも意欲・向上心を持って取り組める職員 ・思いやりと誠実さをもって、常に笑顔で接することができる職員
	（2）職員に期待すること（職員に持って欲しい使命感）
	・専門家として勉強しつづける姿勢を持つ ・見通しをもって仕事に取り組む ・協調性をもち、相手を受け入れ、円滑なコミュニケーションを心がける ・他人事ではなく、常に自分事と考える

《事業所名：羽根木のぞみ保育園》

[ver.2]

調査対象	80世帯（児童数72名）、複数児利用世帯は最低年齢児１人を対象として実施世帯数を絞って実施した。
調査方法	アンケート調査票の配付は保育園を通じて保護者へ手渡し、回収は園に設置した回収箱、および、保護者から評価機関への直接郵送を併用した。

利用者総数	80
利用者家族総数（世帯）	72
共通評価項目による調査対象者数	72
共通評価項目による調査の有効回答者数	40
利用者家族総数に対する回答者割合（%）	55.6

利用者調査全体のコメント

＜総合的な満足度＞
「満足」45%、「まあまあ満足」39%という満足度が示された。
＜調査結果の講評について＞
・質問における各回答の割合については、無回答は除いた。
・肯定的な評価（「はい」との回答）が全体に占める割合についてのみ、記述した。

利用者調査結果

共通評価項目	実数			
コメント	はい	どちらともいえない	いいえ	無回答非該当
1. 保育所での活動は、子どもの心身の発達に役立っているか	24	12	4	0
回答者の60%が「はい」と回答した。				
2. 保育所での活動は、子どもが興味や関心を持って行えるようになっているか	24	12	4	0
回答者の60%が「はい」と回答した。				
3. 提供される食事は、子どもの状況に配慮されているか	36	4	0	0
回答者の90%が「はい」と回答した。				

4. 保育所の生活で身近な自然や社会と十分関わっているか	24	12	4	0
回答者の60%が「はい」と回答した。				
5. 保育時間の変更は、保護者の状況に柔軟に対応されているか	30	5	1	4
回答者の97%が「はい」と回答した。				
6. 安全対策が十分取られていると思うか	35	3	0	2
回答者の92%が「はい」と回答した。				
7. 行事日程の設定は、保護者の状況に対する配慮は十分か	39	1	0	0
回答者の97%が「はい」と回答した。				
8. 子どもの保育について家庭と保育所に信頼関係があるか	29	9	0	2
回答者の76%が「はい」と回答した。				
9. 施設内の清掃、整理整頓は行き届いているか	36	2	0	2
回答者の95%が「はい」と回答した。				
10. 職員の接遇・態度は適切か	34	4	0	2
回答者の89%が「はい」と回答した。				

11. 病気やけがをした際の職員の対応は信頼できるか	35	2	1	2
回答者の92%が「はい」と回答した。				
12. 子ども同士のトラブルに関する対応は信頼できるか	27	7	1	5
回答者の77%が「はい」と回答した。				
13. 子どもの気持ちを尊重した対応がされているか	36	3	0	1
回答者の92%が「はい」と回答した。				
14. 子どもと保護者のプライバシーは守られているか	34	4	0	2
回答者の89%が「はい」と回答した。				
15. 保育内容に関する職員の説明はわかりやすいか	27	11	1	1
回答者の69が「はい」と回答した。				
16. 利用者の不満や要望は対応されているか	27	8	1	4
回答者の75%が「はい」と回答した。				
17. 外部の苦情窓口（行政や第三者委員等）にも相談できることを伝えられているか	20	15	4	1
回答者の51%が「はい」と回答した。				

Ⅰ 組織マネジメント項目（カテゴリー1～5、7、8）

No.	共通評価項目
	カテゴリー1
1	リーダーシップと意思決定

サブカテゴリー1（1-1）

事業所が目指していることの実現に向けて一丸となっている　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　9／9

評価項目1
事業所が目指していること（理念、基本方針）を明確化・周知している　評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、職員の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）について、利用者本人や家族等の理解が深まるような取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 重要な意思決定や判断に迷ったときに、事業所が目指していること（理念・ビジョン、基本方針など）を思い起こすことができる取り組みを行っている（会議中に確認できるなど）	○ 非該当

評価項目2
経営層（運営管理者含む）は自らの役割と責任を職員に対して表明し、事業所をリードしている　評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 経営層は、自らの役割と責任を職員に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 経営層は、自らの役割と責任に基づいて行動している	○ 非該当

評価項目3
重要な案件について、経営層（運営管理者含む）は実情を踏まえて意思決定し、その内容を関係者に周知している　評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 重要な案件を検討し、決定する手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 重要な意思決定に関し、その内容と決定経緯について職員に周知している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 利用者等に対し、重要な案件に関する決定事項について、必要に応じてその内容と決定経緯を伝えている	○ 非該当

	カテゴリー1の講評
	理念や方針、目標の明確化、意識化、具体化を図っている 運営上の柱として保育理念（事業運営方針）を定め、その上で、保育方針や保育目標を定めている。運営面では、理念や方針を踏まえた職員としてのあるべき姿勢や職務上の留意事項、クラス目標などを年度のスタッフ目標としてまとめ、職員一人ひとりが共通認識を持ちつつ自分で考えて行動できるように促している。保護者に対しては、入園前後の機会を捉えて大切にしていることについて説明を行い、また日々の関わりを通して随時発信している。 根拠に基づく実践、丁寧な説明・発信を行っている 組織として目指す事柄を園内に掲示することで、保護者に対しても、園の方針や大切にしている考えを理解してもらえるように図っている。保育課程、および、それに基づく諸指導計画、行事計画に至るすべての計画を、理念に基づくねらいや目的に根拠づけるよう指導している。加えて、積極的な発信、寄せられた意見への回答などの丁寧な説明・発信が、園に対する保護者の理解や納得、安心感につながっている。

カテゴリー2

2 経営における社会的責任

サブカテゴリー1(2-1)

社会人・福祉サービス事業者として守るべきことを明確にし、その達成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 4／4

評価項目1
社会人・福祉サービスに従事する者として守るべき法・規範・倫理などを周知している

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 福祉サービスに従事する者として、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などを明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 全職員に対して、守るべき法・規範・倫理(個人の尊厳)などの理解が深まるように取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
第三者による評価の結果公表、情報開示などにより、地域社会に対し、透明性の高い組織となっている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 第三者による評価の結果公表、情報開示など外部の導入を図り、開かれた組織となるように取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 透明性を高めるために、地域の人の目にふれやすい方法(事業者便り・会報など)で地域社会に事業所に関する情報を開示している	○ 非該当

サブカテゴリー2(2-2)

地域の福祉に役立つ取り組みを行っている

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7／7

評価項目1
事業所の機能や福祉の専門性をいかした取り組みがある

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所の機能や専門性は、利用者に支障のない範囲で地域の人に還元している(施設・備品等の開放、個別相談など)	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 地域の人や関係機関を対象に、事業所の機能や専門性をいかした企画・啓発活動(研修会の開催、講師派遣など)を行っている	○ 非該当

評価項目2
ボランティア受け入れに関する基本姿勢を明確にし、体制を確立している

評点(○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. ボランティアの受け入れに対する基本姿勢を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. ボランティアの受け入れ体制を整備している(担当者の配置、手引き書の作成など)	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. ボランティアに利用者のプライバシーの尊重やその他の留意事項などを伝えている	○ 非該当

評価項目3
地域の関係機関との連携を図っている

評点(○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 地域の関係機関のネットワーク(事業者連絡会など)に参画している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 地域ネットワーク内での共通課題について、協働して取り組めるような体制を整えている	○ 非該当

	カテゴリー2の講評
	職業倫理の理解・定着を図る取り組みを行っている 法人として、業務に携わる上で守るべき法・倫理・規範などについて、職員全体に対して理解を深めるための取り組みを行っている。特に、年に一度、コンプライアンス研修を実施している。運営法人としてコンプライアンスに関する方針を明確化した上で、個人情報保護の意義や内容、コンプライアンス違反に直面した時の行動などについて周知し、確認テストにより理解度の確認や定着を図っている。 様々な取り組みにより透明性の確保を図っている。 厚労省の通知に基づき、社会福祉事業について知識経験を有する者、保育サービスの利用者及び実務を担当する幹部職員を含む運営委員会を設置している。保護者の生の声や他の参加者の客観的な意見などをもとに、課題点を抽出し、運営の向上につなげている。特に、法人運営の各園とのかかわりのある講師の参加は、有益なものとなっている。そのほか、リーフレットの配布、掲示板による情報の発信、見学の随時受け入れなどにより、透明性の確保を図っている。

	カテゴリー3
3	利用者意向や地域・事業環境の把握と活用

サブカテゴリー1（3-1）		
利用者意向や地域・事業環境に関する情報を収集・活用している	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	8／8

評価項目1
利用者一人ひとりの意向（意見・要望・苦情）を多様な方法で把握し、迅速に対応している（苦情解決制度を含む）　　評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 苦情解決制度を利用できることや事業者以外の相談先を遠慮なく利用できることを、利用者に伝えている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用者一人ひとりの意見・要望・苦情に対する解決に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
利用者意向の集約・分析とサービス向上への活用に取り組んでいる　　評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者アンケートなど、事業所側からの働きかけにより利用者の意向を把握することに取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業者が把握している利用者の意向を取りまとめ、利用者から見たサービスの現状・問題を把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 利用者の意向をサービス向上につなげることに取り組んでいる	○ 非該当

評価項目3
地域・事業環境に関する情報を収集し、状況を把握・分析している　　評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 地域の福祉ニーズの収集（地域での聞き取り、地域懇談会など）に取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 福祉事業全体の動向（行政や業界などの動き）の収集に取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 事業所としての今後のあり方の参考になるように、地域の福祉ニーズや福祉事業全体の動向を整理・分析している	○ 非該当

カテゴリー3の講評

意向の把握とそれを踏まえた真摯な対応を図っている

意見箱の設置や行事後のアンケートの実施に加え、日々のコミュニケーションを大切にすることで、保護者の意向の把握に努めている。寄せられた意見については、園からの回答と合わせて公開することで、思いを受け止めた上で方針を改めて説明する機会としている。意見の収集、意見への回答、説明・発信による保護者の納得など、一連のプロセスを通して円滑なコミュニケーションを図っている。

系列園との連携により情報の収集や共通の課題の取り組みを行っている

区内の私立園長会への参加により、地域の保育事業をめぐる動向や共通の課題について情報収集や検討を行っている。また、運営法人を同じくする系列園の園長会では、環境設定の方法、行事の報告など、各園の取り組みを共有したり、必要に応じて対応方法の統一化を図ったりするなど、共通認識に基づきつつ各園が強みを発揮していけるように取り組んでいる。

	カテゴリー4
4	計画の策定と着実な実行

サブカテゴリー1（4-1）

実践的な課題・計画策定に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 10／11

評価項目1
取り組み期間に応じた課題・計画を策定している

評点（○○●）

評価	標準項目	
○ あり ◉ なし	1. 理念・ビジョンの実現に向けた中・長期計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 年度単位の計画を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 短期の活動についても、計画的（担当者・スケジュールの設定など）に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
多角的な視点から課題を把握し、計画を策定している

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 課題の明確化、計画策定の時期や手順があらかじめ決まっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 課題の明確化、計画の策定にあたり、現場の意向を反映できるようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 計画は、サービスの現状（利用者意向、地域の福祉ニーズや事業環境など）を踏まえて策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 計画は、想定されるリスク（利用者への影響、職員への業務負担、必要経費の増大など）を踏まえて策定している	○ 非該当

評価項目3
着実な計画の実行に取り組んでいる

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 計画推進の方法（体制、職員の役割や活動内容など）を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 計画推進にあたり、より高い成果が得られるように事業所内外の先進事例・失敗事例を参考にするなどの取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 計画推進にあたり、目指す目標と達成度合いを測る指標を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 計画推進にあたり、進捗状況を確認し（半期・月単位など）、必要に応じて見直しをしながら取り組んでいる	○ 非該当

サブカテゴリー2(4-2)		
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる	サブカテゴリー毎の 標準項目実施状況	4／4

評価項目1
利用者の安全の確保・向上に計画的に取り組んでいる

評点(○○○○)

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用者の安全の確保・向上を図るため、関係機関との連携や事業所内の役割分担を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事故、感染症、侵入、災害などの事例や情報を組織として収集し、予防対策を策定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 事故、感染症、侵入、災害などの発生時でもサービス提供が継続できるよう、職員、利用者、関係機関などに具体的な活動内容が伝わっている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 事故、感染症、侵入などの被害が発生したときは、要因を分析し、再発防止に取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー4の講評

一年間の運営の内容や方向性を計画として明確化している

単年度の事業計画を策定している。冒頭に保育理念を示した上で、乳児保育・異年齢混合保育・土曜保育などの日常保育のあり方、職員配置、業務内容、職員体制、地域参加、年間行事予定、消防・防犯訓練など、一年間で取り組んでいく事柄をその体制とともに明確化している。

安全な環境の維持・向上に取り組んでいる

事故や事故に至らない事例(ヒヤリ・ハット)、苦情などの事態が生じた場合は、事態の性質により領域別に分類した上で、発生内容(状況、職員配置、職員の意識)を確認し、今後の対策を決定し、周知している。この間の経過や事後処理についても、記録している。そして、要因分析や再発防止について職員全体で取り組んでいる。

	カテゴリー5
5	職員と組織の能力向上

サブカテゴリー1（5-1）

事業所が目指している経営・サービスを実現する人材の確保・育成に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 5／8

評価項目1
事業所にとって必要な人材構成にしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所の人事制度に関する方針（人材像、職員育成・評価の考え方）を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 事業所が必要とする人材を踏まえた採用を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 適材適所の人員配置に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
職員の質の向上に取り組んでいる

評点（○○●●●）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 職員一人ひとりの能力向上に関する希望を把握している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	2. 事業所の人材育成計画と職員一人ひとりの意向に基づき、個人別の育成（研修）計画を策定している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	3. 個人別の育成（研修）計画は、職員の技術水準、知識、専門資格の習得（取得）などの視点を入れて策定している	○ 非該当
○ あり ◉ なし	4. 職員一人ひとりの個人別の育成（研修）計画に基づいて、必要な支援をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 職員の研修成果を確認し（研修時・研修直後・研修数ヶ月後など）、研修が本人の育成に役立ったかを確認している	○ 非該当

サブカテゴリー2（5-2）

職員一人ひとりと組織力の発揮に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7／7

評価項目1
職員一人ひとりの主体的な判断・行動と組織としての学びに取り組んでいる

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 職員の判断で実施可能な範囲と、それを超えた場合の対応方法を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 職員一人ひとりの日頃の気づきや工夫について、互いに学ぶことに取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員一人ひとりの研修成果を、レポートや発表等で共有化に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目2
職員のやる気向上に取り組んでいる

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所の特性を踏まえ、職員の育成・評価・報酬（賃金、昇進・昇格、賞賛など）が連動した人材マネジメントを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 就業状況（勤務時間や休暇取得、疲労・ストレスなど）を把握し、改善に取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員の意識を把握し、やる気と働きがいの向上に取り組んでいる	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 福利厚生制度の充実に取り組んでいる	○ 非該当

カテゴリー5の講評

一人ひとりの意識や力量に即した育成を行っている

年間2回の面談を実施し、職員一人ひとりのやりがいや満足度、現在スキルアップのために行っていること、異動の希望を含む今後の展望などについて聞き取りを行っている。職員一人ひとりの力量や必要とされる能力などを見極めながら、適宜助言・指導を行い、考えて行動していける人材の育成に取り組んでいる。

士気の向上と職場への定着を図っている

職員一人ひとりの力量を見ながら、力をつけていくべき部分については、園長や主任が根気強く丁寧に指導をしている。指導に際しては、行動の理由や根拠、より良いあり方などについて職員自身が考えられるような働きかけをしている。また、園長や本社スーパーバイザーによる現状の把握や助言、就業状況の改善に向けた取り組みなどにより、一人ひとりの着実な育成と定着を図っている。

	カテゴリー7
7	情報の保護・共有

サブカテゴリー1（7-1）

情報の保護・共有に取り組んでいる

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 7／7

評価項目1
事業所が蓄積している経営に関する情報の保護・共有に取り組んでいる

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 情報の重要性や機密性を踏まえ、アクセス権限を設定している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 収集した情報は、必要な人が必要なときに活用できるように整理・保管している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 保管している情報の状況を把握し、使いやすいように更新している	○ 非該当

評価項目2
個人情報は、「個人情報保護法」の趣旨を踏まえて保護・共有している

評点（〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 事業所で扱っている個人情報の利用目的を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 個人情報の保護に関する規定を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 開示請求に対する対応方法を明示している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 個人情報の保護について職員（実習生やボランティアを含む）が理解し行動できるための取り組みを行っている	○ 非該当

カテゴリー7の講評

情報の利用と保護の両立を図っている

収集・蓄積した情報は、紙ベース、電子データとも、適性な利用と厳格な保護とを図る適切な管理を行っている。子ども一人ひとりの成育歴や経過記録などについては、施錠できるキャビネットに保管している。パソコンについてはアクセス権限を設定し、さらに各フォルダへのアクセスについても権限を決定している。

個人情報保護のための体制を整え、その意義や内容の浸透を図っている

法人として、個人情報について適切な保護措置を講ずる体制を整備している事業者としての認定を受けており、顧客、法令、自社、同制度の同制度の規格それぞれの視点からの要求事項に応えうる個人情報保護のためのマネジメントシステムを確立している。職員に対しては、年に一度、コンプライアンス研修を実施し、個人情報保護の意義や内容、コンプライアンス違反に直面した時の行動などについて周知し、確認テストにより理解度の確認や定着を図っている。

カテゴリー8

8 カテゴリー1～7に関する活動成果

サブカテゴリー1（8-1）

前年度と比べ、事業所の方向性の明確化や関係者への周知、地域・社会への責任の面で向上している

評価項目1

前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー1：「リーダーシップと意思決定」 ・カテゴリー2：「経営における社会的責任」 ・カテゴリー4：「計画の策定と着実な実行」	◉ 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

共通認識の促進を図っている

運営上の柱として保育理念（事業運営方針）、それを踏まえて保育方針や保育目標を定めている。その上で、職員としてのあるべき姿勢や職務上の留意事項、クラス目標などを年度のスタッフ目標としてまとめている。特にクラス目標は、各クラスで達成可能なものを決定するようにするなど、職員一人ひとりが共通認識を持ちつつ自分で考えて行動できるように促している。

サブカテゴリー2（8-2）

前年度と比べ、職員と組織の能力の面で向上している

評価項目1

前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー5：「職員と組織の能力向上」	◉ 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

組織として職員の学びに取り組んでいる

保育の質の向上を目指し、組織として職員の学びに取り組んでいる。テーマによっては講師を招き、子どもの楽しむ様子を見ながら職員も学んでいる。また、職員自身による自主的な学びにも力を入れている。こうした取り組みを通じて、職員各自の意識や力量の向上を図り、園全体としての保育の質の向上を図っている。

サブカテゴリー3（8-3）

前年度と比べ、福祉サービス提供プロセスや情報保護・共有の面において向上している

評価項目1

前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、以下のカテゴリーで評価される部分について、改善を行い成果が上がっている ・カテゴリー6：「サービス提供のプロセス」 ・カテゴリー7：「情報の保護・共有」	◉ 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない

改善の成果

特色ある保育を通して一人ひとりとじっくりとかかわっている

わらべうたを保育の中に積極的に取り入れ、子ども自身が考え、発想し、展開させていくことを大切にしている。慣れ親しんだ大人による心地よい声に合わせて、あるいは子ども同士でともに声を出し、言葉に触れ、大人や子どもとかかわる中で、豊かな心を育んでいる。ゆったりとした雰囲気の中で心を介したコミュニケーションをとり、一人ひとりとじっくりとかかわっている。

サブカテゴリー4（8-4）	
事業所の財政等において向上している	
評価項目1	
財政状態や収支バランスの改善へ向けた計画的かつ主体的な取り組みにより成果が上がっている	◉ 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
予算内で効率的な業務の遂行を図っている 予算に基づく業務の遂行に加え、個々人のコスト意識の徹底などにより、効率的な業務の遂行を図っている。	

サブカテゴリー5（8-5）	
前年度と比べ、利用者満足や利用者意向の把握等の面で向上している	
評価項目1	
前年度（比較困難な場合は可能な期間で）と比べて、利用者満足や以下のカテゴリーで評価される部分において改善傾向を示している ・カテゴリー3：「利用者意向や地域・事業環境などの把握と活用」	◉ 改善に向けた計画的な取り組みが行われており、成果として現れている ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われているが、成果としては現れていない ○ 改善に向けた計画的な取り組みが行われていない
改善の成果	
保護者に対し、積極的な発信や回答を行っている 保護者に対する発信を積極的に行うことで、保護者から意見が上がりやすい関係を構築している。その上で、寄せられた意見への回答など、丁寧な説明・発信を行うことで、保護者の理解や納得、安心感につなげている。	

Ⅱ サービス提供のプロセス項目（カテゴリー6-1～3、6-5～6）

No.	共通評価項目
1	サブカテゴリー1
	サービス情報の提供　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　4／4
	評価項目1 利用希望者等に対してサービスの情報を提供している 評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 利用希望者等が入手できる媒体で、事業所の情報を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用希望者等の特性を考慮し、提供する情報の表記や内容をわかりやすいものにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 事業所の情報を、行政や関係機関等に提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 利用希望者等の問い合わせや見学の要望があった場合には、個別の状況に応じて対応している	○ 非該当

サブカテゴリー1の講評

運営会社のホームページにて、保育園の概要を案内している

運営会社のホームページでは、直営の認可保育園として、保育理念をはじめ、保育園の特徴を掲示している。当園では、家庭的な雰囲気（乳児はより家庭的な雰囲気の中で、ゆったりとした保育を行う）、異年齢混合保育（異年齢児が自然にかかわることができる取りくみ）、わらべうたあそび（わらべうたあそびを生活の中で取り入れ、人とかかわる楽しさや社会性を育む）の3点を打ち出している。

入園の問い合わせには、保護者の都合に合わせて対応している

利用希望者などからの問い合わせに対しては私立認可園として、園で電話による場合は即対応し、見学の希望者に対しては、園での様子を見ることができるように、土曜日も含め日中の見学を推奨し、可能な限り希望に沿って対応している。そして、見学時には、利用希望者が求めているサービスがどのようなものなのかを確認し、併せて、当園の提供しているサービス内容を記載した園のしおりなどを用いて、個別のニーズに応じた相談を行っている。これらの記録は、問い合わせ記録や見学記録に残して、その後の問い合わせに対応できるように備えている。

No.	共通評価項目
2	サブカテゴリー2
	サービスの開始・終了時の対応　サブカテゴリー毎の標準項目実施状況　6／6
	評価項目1 サービスの開始にあたり保護者に説明し、同意を得ている 評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービスの開始にあたり、基本的ルール、重要事項等を保護者の状況に応じて説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. サービス内容について、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスに関する説明の際に、保護者の意向を確認し、記録化している	○ 非該当

評価項目2
サービスの開始及び終了の際に、環境変化に対応できるよう支援を行っている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. サービス開始時に、子どもの保育に必要な個別事情や要望を決められた書式に記録し、把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 利用開始直後には、子どもの不安やストレスが軽減されるように支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. サービスの終了時には、子どもや保護者の不安を軽減し、支援の継続性に配慮した支援を行っている	○ 非該当

サブカテゴリー2の講評

入園のしおりを用いて、基本的ルール等を案内している

園では、入園児健康診断・面接の機会や入園説明会など、入園前および入園直後の機会を捉えて、園での生活に関する基本事項について説明している。そこでは、園の理念や園での生活の概要、年間行事のほか、持ち物などについて、「入園のしおり」を用いて具体的に説明をしている。また、災害時の対応方法や保険制度についても、各種文書により説明している。そして、利用内容について十分に説明した上で、「入園説明承諾書」にて、同意を得ている。

入園に際し、児童票をもとに、保育する上での要望を把握している

入園にあたっては、保育時間はもとより、子どもの体調、生活上の留意事項など、保護者の状況や意向について確認している。そのほか、成長・発達の状況などの入園前の子どもの様子や、食事、健診などの状況について確認し、記録している。利用開始時には、保護者の就業開始日よりも前に、子どもを短時間から預かり、子どもが徐々に新しい環境に慣れるよう、配慮している。

サブカテゴリー3

3 個別状況に応じた計画策定・記録

サブカテゴリー毎の標準項目実施状況 12／12

評価項目1
定められた手順に従ってアセスメント（情報収集、分析および課題設定）を行い、子どもの課題を個別のサービス場面ごとに明示している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの心身状況や生活状況等を、組織が定めた統一した様式によって記録し把握している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもや保護者のニーズや課題を明示する手続きを定め、記録している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. アセスメントの定期的見直しの時期と手順を定めている	○ 非該当

評価項目2
保育課程や子どもの様子を踏まえた指導計画を作成している

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 指導計画は、保育課程を踏まえて、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各領域を考慮して作成している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 指導計画は、子どもの実態や子どもを取り巻く状況の変化に即して、作成、見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 個別的な計画が必要な子どもに対し、子どもの状況（年齢・発達の状況など）に応じて、個別的な計画の作成、見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 指導計画を保護者にわかりやすく説明している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 指導計画は、見直しの時期・手順等の基準を定めたうえで、必要に応じて見直している	○ 非該当

評価項目3
子どもに関する記録が行われ、管理体制を確立している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子ども一人ひとりに関する必要な情報を記載するしくみがある	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 指導計画に沿った具体的な保育内容と、その結果子どもの状態がどのように推移したのかについて具体的に記録している	○ 非該当

評価項目4
子どもの状況等に関する情報を職員間で共有化している

評点（○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 指導計画の内容や個人の記録を、保育を担当する職員すべてが共有し、活用している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 申し送り・引継ぎ等により、子どもや保護者の状況に変化があった場合の情報を職員間で共有化している	○ 非該当

サブカテゴリー3の講評

各要素を踏まえて事業計画を策定している

保育指針などを踏まえて、園として進めていく保育の内容・方向性について、保育課程としてまとめている。その上で、保育目標を具体化する実践計画として年齢ごとに指導計画（長期保育計画）を作成している。計画は、養護（生命の保持・情緒の安定）と教育（健康・人間関係・環境・言葉・表現）の各要素に応じた項目立てを行い、年齢別に目標設定を行っている。これをもとに、短期的な指導計画を作成している。そして、子どもの様子を踏まえて、定期的に会議で検討し、振り返り・見直しを行っている。

日々の変化について共有している

年間指導計画やその他の短期の指導計画は、各クラスの子どもの発達に沿った内容になっているか否かを重視しており、クラス会議で話し合いを経て立案している。ここで作成された指導計画はクラスごとに担任が確認し、全員が内容に目を通している。また、日々の保育の中で子どもや保護者の状況に変化がある場合には、その都度、申し送り・引き継ぎなどを通して伝達し、必要に応じて経過記録にも記入している。

	サブカテゴリー5		
5	プライバシーの保護等個人の尊厳の尊重	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	7／7

評価項目1
子どものプライバシー保護を徹底している

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもに関する情報（事項）を外部とやりとりする必要が生じた場合には、保護者の同意を得るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもの羞恥心に配慮した保育を行っている	○ 非該当

評価項目2
サービスの実施にあたり、子どもの権利を守り、子どもの意思を尊重している

評点（〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 日常の保育の中で子ども一人ひとりを尊重している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもと保護者の価値観や生活習慣に配慮した保育を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 虐待防止や育児困難家庭への支援に向けて、職員の勉強会・研修会を実施し理解を深めている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもの気持ちを傷つけるような職員の言動、虐待が行われることのないよう、職員が相互に日常の言動を振り返り、組織的に防止対策を徹底している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	○ 非該当

サブカテゴリー5の講評

情報の適切な取り扱い、羞恥心への配慮を行っている

収集した個人情報の取り扱い（利用目的など）については、入園面接の際に保護者に対して説明し、同意を得た上で、行っている。羞恥心への配慮としては、排泄の際には、目隠しになるように窓ガラスに装飾を施したり、囲いを設置したりするなど、必要な対応をとっている。そのほか、プール活動の際にも、不要な肌の露出や裸のままで外に出ないようにするなど、配慮している。

一人ひとりを尊重した実践を心がけている

職員のガイドラインにおいて、「一人ひとりが尊重される保育を心がける」旨を記載し、実践の根底に据えている。また、保育士の心構えなどを記載した「保育士の共通理解」においても、指示・命令・近視・共生の言葉による指導ではなく、子どもの全面的な受容、自由な自己決定、主体的な生活などの尊重・保障を掲げた上で、遵守すべき保育士倫理要綱を定めている。日々の保育実践においても、子どもを尊重した指導計画やそれに基づいた援助となるよう、継続的に取り組んでいる。

6	サブカテゴリー6		
	事業所業務の標準化	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	11／11

評価項目1
手引書等を整備し、事業所業務の標準化を図るための取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 手引書(基準書、手順書、マニュアル)等で、事業所が提供しているサービスの基本事項や手順等を明確にしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスが定められた基本事項や手順等に沿っているかどうか定期的に点検・見直しをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員は、わからないことが起きた際や業務点検の手段として、日常的に手引書等を活用している	○ 非該当

評価項目2
サービスの向上をめざして、事業所の標準的な業務水準を見直す取り組みをしている

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 提供しているサービスの基本事項や手順等は改変の時期や見直しの基準が定められている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 提供しているサービスの基本事項や手順等の見直しにあたり、職員や保護者等からの意見や提案、子どもの様子を反映するようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員一人ひとりが工夫・改善したサービス事例などをもとに、基本事項や手順等の改善に取り組んでいる	○ 非該当

評価項目3
さまざまな取り組みにより、業務の一定水準を確保している

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 打ち合わせや会議等の機会を通じて、サービスの基本事項や手順等が職員全体に行き渡るようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 職員が一定レベルの知識や技術を学べるような機会を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 職員全員が、子どもの安全性に配慮した保育ができるようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 職員一人ひとりのサービス提供の方法について、指導者が助言・指導している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 職員は、わからないことが起きた際に、指導者や先輩等に相談し、助言を受けている	○ 非該当

	サブカテゴリー6の講評
	運営・保育実践を支える手順書を整備している 運営法人として、系列各園の運営の基盤となる基本事項や手順を、マニュアルやガイドラインとして定めている。事故防止や不審者対応、虐待防止、危機管理ほか、日常の保育や健康管理などの分野における対応手順を明確化し、手順に沿った業務の遂行による安全・安心の保育実践を支えている。 内部研修、外部研修、法人研修などを通して学びを深めている 職員会議の場を活用してテーマに基づく研修を実施したり、外部機関主催の研修に参加したりすることを通して、一人ひとりが必要な力をつけ、専門性を向上させ、実践に活かしていけるように取り組んでいる。また、運営法人として、入社時にビジネスマナー研修を実施し、保護者対応、電話対応、職場でのコミュニケーションなどについて学べる機会を設定している。さらに、年に1一度、コンプライアンス研修を実施し、職業倫理の理解・定着を図る取り組みを徹底している。

Ⅲ サービスの実施項目（カテゴリー6-4）

サブカテゴリー4		
サービスの実施項目	サブカテゴリー毎の標準項目実施状況	35／35

1 評価項目1
子ども一人ひとりの発達の状態に応じた保育を行っている

評点（○○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 発達の過程や生活環境などにより、子ども一人ひとりの全体的な姿を把握したうえで保育を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが主体的に周囲の人・もの・ことに興味や関心を持ち、働きかけることができるよう、環境を工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども同士が年齢や文化・習慣の違いなどを認め合い、互いを尊重する心が育つよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 特別な配慮が必要な子ども（障害のある子どもを含む）の保育にあたっては、他の子どもとの生活を通して共に成長できるよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 発達の過程で生じる子ども同士のトラブル（けんか・かみつき等）に対し、子どもの気持ちを尊重した対応をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6.【5歳児の定員を設けている保育所のみ】 小学校教育への円滑な接続に向け、小学校と連携をとって、援助している	○ 非該当

評価項目1の講評

「自分のことができ、やりきった」という満足感を促す保育を行っている

子どもの目の高さに設定し、自分で取り出せるような玩具、思い思いの活動に集中できる空間、友だちとのやりとりを経験できるような玩具などを準備・設定し、自分で選び、思いを表現し、人とかかわっていけるようにしている。また、わらべうたを日常の保育の中に積極的に取り入れている。慣れ親しんだ大人による心地よい声に合わせて、あるいは子ども同士でともに声を出し、言葉に触れ、大人や子どもとかかわる中で、豊かな心を育んでいる。ゆったりとした雰囲気の中で心を介したコミュニケーションをとり、一人ひとりとじっくりとかかわっている。

2 評価項目2
子どもの生活が安定するよう、子ども一人ひとりの生活のリズムに配慮した保育を行っている

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 登園時に、家庭での子どもの様子を保護者に確認している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 発達の状態に応じ、食事・排せつなどの基本的な生活習慣の大切さを伝え、身につくよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 休息（昼寝を含む）の長さや時間帯は子どもの状況に配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 降園時に、その日の子どもの状況を保護者一人ひとりに直接伝えている	○ 非該当

	評価項目2の講評
	基本的な生活習慣を身につけられるよう支援している 登園の際は個別に声をかけ、家庭での食事や睡眠などの状況、体調などを確認し、必要な場合はそれらを踏まえた対応につなげている。お迎えの際は、当番職員を中心に、保護者一人ひとりに対し、日中の子どもの様子を伝えている。また、子どもの成長していく姿を保護者と共有し、連携を取りながら、食具の持ち方、トイレの際の一連の動作、衣服の前後裏表や靴の左右の認識、手洗いうがいなど、日常の中での積み重ねを通して基本的な生活習慣が身につくよう、援助している。

3 評価項目3

日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している

評点（〇〇〇〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもの自主性、自発性を尊重し、遊びこめる時間と空間の配慮をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 子どもが、集団活動に主体的に関われるよう援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子ども一人ひとりの状況に応じて、子どもが言葉による伝え合いを楽しみ、言葉に対する感覚を養えるよう配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもが様々な表現を楽しめるようにしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 戸外・園外活動には、季節の移り変わりなどを感じとることができるような視点を取り入れている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	6. 生活や遊びを通して、子どもがきまりの大切さに気付き、自分の気持ちを調整する力を育てられるよう、配慮している	○ 非該当

	評価項目3の講評
	わらべうた活動を取り入れた保育を展開している わらべうたを保育の中に積極的に取り入れ、子ども自身が考え、発想し、展開させていくことを大切にしている。わらべうたを通して、言葉に触れ、興味を持ち、友達との関わりを広げ、互いに刺激し合い育つ姿がある。大人の掛け声なしで始まり、展開していくなど、子ども自身の中から発生した遊びを楽しんでいる。乳児から幼児まで幅広いわらべうた遊びを通して、集団活動に主体的にかかわったり、お互いにスキンシップを重ねることにより、人に対する信頼感や思いやりの心を育んでいる。

4 評価項目4
日常の保育に変化と潤いを持たせるよう、行事等を実施している

評点（〇〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 行事等の実施にあたり、子どもが興味や関心を持ち、自ら進んで取り組めるよう工夫している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. みんなで協力し、やり遂げることの喜びを味わえるような行事等を実施している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子どもが意欲的に行事等に取り組めるよう、行事等の準備・実施にあたり、保護者の理解や協力を得るための工夫をしている	○ 非該当

評価項目4の講評

挑戦する気持ち、応援する気持ち、成し遂げることによる達成感を感じている

何かの行事をやり遂げること自体を目標にするのではなく、日常の保育の積み重ねの結果を発表する場として行事を捉えている。そのため、幼児クラスに関しては、運動会であれば大縄跳びなど、クラス全体で何かをやり遂げるような競技を取り入れている。成功に向けて何度も練習を重ねる中で、挑戦する気持ち、応援する気持ち、成し遂げることによる達成感などを味わっている。

5 評価項目5
保育時間の長い子どもが落ち着いて過ごせるような配慮をしている

評点（〇〇）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 保育時間の長い子どもが安心し、くつろげる環境になるよう配慮をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 保育時間が長くなる中で、保育形態の変化がある場合でも、子どもが楽しく過ごせるよう配慮をしている	○ 非該当

評価項目5の講評

長時間の滞在でも落ち着いて過ごすことが出来る環境上の配慮をしている

長時間園に滞在する子どもの心身の状況を踏まえ、活動と休息のバランスに配慮している。静的・動的それぞれの活動の場を保障している。少人数で自由に遊んだり、ホッとしたりできる場としている。異年齢同士で関わりながら、好きな遊びを楽しんだり、のんびりと過ごしたりできる環境を整えている。泣いている子どもを見て気にかけたり、遊びを見せたりする姿も見られている。

6 評価項目6
子どもが楽しく安心して食べることができる食事を提供している

評点（○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもが楽しく、落ち着いて食事をとれるような雰囲気作りに配慮している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. メニューや味付けなどに工夫を凝らしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 子どもの体調（食物アレルギーを含む）や文化の違いに応じた食事を提供している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 食についての関心を深めるための取り組み（食材の栽培や子どもの調理活動等）を行っている	○ 非該当

評価項目6の講評

食への関心を育んでいる

園では、子どもたちが落ちついて食事を食べることができるように、各クラスにわかれて食事をしている。また、3歳未満の子どもたちの食事は、年齢や発達に応じて、一緒に食事をする人数を少数グループにして、保育士の目が行き届き、子どもたちが落ちついて安心して食事をとれるようにしている。食への関心を育む取り組みとしては、野菜の栽培・観察・収穫・調理活動への参加を通して、興味を持てるようにしている。

アレルギーや、食べられない食材については十分に配慮して取り組んでいる

食に関して踏まえる事柄については、健康調査票や食材アンケート、アレルギー関連書式など、入園時に確認した情報を踏まえて、食物アレルギーの有無や文化的に食べられない食材などについて配慮している。その上で、除去可能なアレルゲンに関しては除去をし、できるだけ他の子どもと同じ食事を食べられるようにしている。また、文化的な違いにより特定の食材を口にできない場合には、保護者より一品持参して頂いている。さらに、おやつに関しても、口にできるおかしなどを持参して頂くなど、子どもの健康状態に配慮している。

7 評価項目7
子どもが心身の健康を維持できるよう援助している

評点（○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 子どもが自分の健康や安全に関心を持ち、病気やけがを予防・防止できるように援助している	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 医療的なケアが必要な子どもに、専門機関等との連携に基づく対応をしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 保護者と連携をとって、子ども一人ひとりの健康維持に向けた取り組み（乳幼児突然死症候群の予防を含む）を行っている	○ 非該当

	評価項目7の講評
	健康管理・感染症対策などに取り組んでいる 子どもの心身の健康を維持できるように、入園児には子どもの健康調査票を用いて入園に際しての健康状態を把握している。また、体温、登園時の体調、嘔吐・下痢時の対応、登園可能か否かの判断、お迎え連絡の方法など、健康状態について保護者が子どもの登園の可否を考える目安を示している。園内での感染症対策としては、園内や区内で発生した感染症については、症状や予防法、潜伏期間などを発信している。

8 評価項目8

保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている

評点（○○○○○）

評価	標準項目	
◉ あり ○ なし	1. 保護者には、子育てや就労等の個々の事情に配慮して支援を行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	2. 保護者同士が交流できる機会を設けている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	3. 保護者と職員の信頼関係が深まるような取り組みをしている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	4. 子どもの発達や育児などについて、保護者との共通認識を得る取り組みを行っている	○ 非該当
◉ あり ○ なし	5. 保護者の養育力向上のため、園の保育の活動への参加を促している	○ 非該当

	評価項目8の講評
	保護者と共通認識を持って進めていけるように取り組んでいる 個別の面談のほか、全体では懇談会を実施し、子どもの育ちを保護者とともに共有できるよう取り組んでいる。子どもの姿について、遊び、生活、食事、排泄、着替えなどにおける一年間の成長・変化とこれからについて共有したり、就学に向けて習得しておくべきことについて発信したりするなど、子どもの成長を振り返り、今後の見通しを持ち、園と家庭とで共通認識に立って子どもの育ちを支えていけるように取り組んでいる。

9	評価項目9 地域との連携のもとに子どもの生活の幅を広げるための取り組みを行っている 評点（〇〇）		
	評価	標準項目	
	◉ あり ○ なし	1. 子どもが地域の資源を利用し、多様な体験や交流ができるような機会を確保している	○ 非該当
	◉ あり ○ なし	2. 園の行事に地域の人の参加を呼び掛けたり、地域の行事に参加する等、子どもが職員以外の人と交流できる機会を確保している	○ 非該当

評価項目9の講評

地域との触れ合いの機会がある

行事によっては、近隣の施設や商店街の方々、当園が所在する建物に入る会社の方々と触れ合える機会がある。また、社会福祉協議会の協力を得てバルーンアートを楽しんだり、劇団員によるコンサートを楽しんだりする機会もある。特に後者は、地域の方々の参加もある。そのほか、近隣の保育施設とともにプール遊びやお遊戯を楽しんだり、共に避難訓練を実施したりしている。特に子ども同士の交流については、今後も拡大していく方針である。

事業者が特に力を入れている取り組み①		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル①	心を介したコミュニケーションにより心の育ちを支えている	
内容①	わらべうたを日常の保育の中に積極的に取り入れている。慣れ親しんだ大人による心地よい声に合わせて、あるいは子ども同士でともに声を出し、言葉に触れ、大人や子どもとかかわる中で、豊かな心を育んでいる。ゆったりとした雰囲気の中で心を介したコミュニケーションをとり、一人ひとりとじっくりとかかわっている。	

事業者が特に力を入れている取り組み②		
評価項目	6-4-3	日常の保育を通して、子どもの生活や遊びが豊かに展開されるよう工夫している
タイトル②	保育に従事する上で必要な規範意識の定着を図っている	
内容②	業務に携わる上で守るべき法・倫理・規範などについて、職員全体に対して理解を深めるための取り組みを行っている。特に、年に一度、研修を実施している。運営法人として法令遵守に関する方針を明確化した上で、個人情報保護の意義や内容、違反に直面した時の行動、適切な就業環境の維持などについて周知し、理解度の確認や定着を図っている。職業倫理の理解・定着を図る取り組みとしても、園に対する信頼を確実なものとする取り組みとしても機能している。	

事業者が特に力を入れている取り組み③		
評価項目	6-4-8	保護者が安心して子育てをすることができるよう支援を行っている
タイトル③	心身の成長を支える上での足の機能や適切な靴の重要性を発信している	
内容③	子どもの自立・自律を促していくために、足の機能の成長からアプローチしている。姿勢や骨格の成長への歩き方の影響を踏まえ、特に、本人の足に合った靴の使用を推奨しており、子どもが履きたいと思える靴、散歩時も脱げにくい靴について保護者に助言している。成長・発達に応じて、子どもが自分で履くことが出来る靴を用意することが、「自分でやる」という意欲に応え、しっかりとした足取りを援助し、活発な活動による心身の成長を支えている。	

《事業所名：羽根木のぞみ保育園》

No.	特に良いと思う点	
1	タイトル	共通認識の下で各自が考え、保育を実践していくための取り組みがある
	内容	運営上の柱として保育理念（事業運営方針）、それを踏まえて保育方針や保育目標を定めている。その上で、職員としてのあるべき姿勢や職務上の留意事項、クラス目標などを年度のスタッフ目標としてまとめている。特にクラス目標は、各クラスでテーマに沿って話し合って達成可能なものを決定するようにするなど、職員一人ひとりが共通認識を持ちつつ自分で考えて行動できるように促している。
2	タイトル	組織全体での学びに力を入れている
	内容	保育の質の向上を目指し、組織として職員の学びに取り組んでいる。表現遊びなど、テーマによっては講師を招き、子どもの楽しむ様子を見ながら職員も学んでいる。また、リズム遊びや権利擁護などのテーマで、職員自身による自主的な学びにも力を入れている。こうした取り組みを通じて、職員各自の意識や力量の向上を図り、園全体としての保育の質の向上を図っている。
3	タイトル	「自立」「自律」の確立という視点を援助の軸として実践している
	内容	日常における遊びや生活を通して、自分の身の周りのことができる「自立」、自分の気持ちをコントロールする「自律」、それぞれの力を育んでいけるように取り組んでいる。一人ひとりの発達に応じて子ども自身が意識できるようにかかわり、本人の意欲や主体性を大切にしつつ、食事や排泄、着脱などの面における自立を援助している。また、ルールのある遊びや日常生活の各場面における人とのかかわりを通して、他者の気持ちに気づいたり、決まりごとの大切さを感じたりしながら、徐々に自分の気持ちを調節できるように援助している。

No.	さらなる改善が望まれる点	
1	タイトル	保育の意図について保護者とより一層共有していく
	内容	日々のコミュニケーションをはじめ、掲示物・配布物、保護者会などを活用して、園の取り組みについて保護者に発信している。保育の内容については、ある程度浸透していることがうかがえるが、園としては、その意図（ねらい）についてもより一層理解を得ていくことが必要であると認識している。保護者とのねらいの共有が、保育に対する理解を一層深めることや、ともに子どもの育ちを支えていくことにもつながっていく。今後も、より一層保護者に対する発信を行っていくことを課題としている。
2	タイトル	職員一人ひとりの育成をより確かなものにしていく方策を探る
	内容	特に新入職員に対しては、一定期間を設けて研修を行い、主任を中心に重点的な育成を図っている。学ぶ目的を設定し、学んだことを振り返り、それを今後活かしていけるように助言を行っている。着実な育成のためには、こうした採用時のものだけでなく、経験年数に応じた指導・育成の体系が必要となってくる。今後は、組織として求める人材像や個人としてつけていきたい力などを踏まえて、学びの機会を提供し、より着実な成長を図っていくためにも、個別の育成計画の導入を含め、より良い方策を検討していくことを課題としている。
3	タイトル	ねらいに基づく振り返りを一層意識的に行っていく
	内容	運営・保育実践両面とも、計画の作成、実行、振り返りのプロセスがある。特に行事の面では、良かった点や出来なかった点の振り返り、その原因の究明、今後の目標の明確化という仕組みを確立している。それぞれの取り組みにおいて設定した「ねらい」に基づく振り返りは、振り返りそれ自体や次に実行する際の内容の充実につながっていく。今後も、計画、実行、振り返りのプロセスの充実を図っていくことを課題としている。